土屋一夫先生（医学科３１期）アンケートご回答

質問１　受賞の喜びをお聞かせください。

ありがとうございます。ご指導いただきました椙村教授に感謝申し上げます。

質問２　いつ頃からどのようなきっかけで今回のテーマに取り組まれたのでしょうか。

大学院生として腫瘍病理学講座で実験を開始した2018年夏から、前任の吉村克洋先生がRNA修飾をテーマに研究されていたことがきっかけで、まだあまり研究が進んでいない、N6メチルアデノシン(m6A)の脱メチル化酵素に着目して実験を開始しました。

質問３　今回の研究でご苦労された点はなんでしょうか。

m6AはRNAの中でも希少 (全アデノシンの0.2%程度) なので大量の培養細胞が必要だったことから、途方もない量の細胞を培養し続ける必要があったこと (今思い出すだけでもゾッとします)、また私自身が大学病院の呼吸器内科医を兼任していたためCOVID-19の第4波、第5波では大事な時期に一時実験を中断しなければならなかった点があげられます。また、本テーマで研究を開始して2年が過ぎた頃、同じテーマでの研究報告が出てしまったことで、新規性を見出すために研究内容をより深める必要性に迫られ苦心しました。

質問４　近況をお聞かせください。

現在県内の市中病院で呼吸器内科医として勤務し、忙しくも充実した日々を送っています。

質問５　今後の課題についてお聞かせください。

基礎研究で培った知識、技術、発想力、忍耐力を活かし、患者さんに直接還元できる医療行為やより良い治療を提供できるための研究をしていきたいです。

質問６　今後の同窓会に望むことをお聞かせください。

このような受賞制度は研究者にとって励みになると思いますので継続いただければと思います。